

◇会議報告◇

日中韓三カ国会計基準設定主体会議報告

ASBJ 専門研究員 木村 真理

1. はじめに

2023年8月30日に、第23回日中韓三カ国会計基準設定主体会議（以下「本会議」という。）が、2019年に東京で対面開催されて以降、4年ぶりに上海で開催された。本会議は、東アジアの近隣三カ国の会計基準設定主体者間で、内外の様々な問題について認識を共有し、意見交換を行うことを目的としてスタートしたものである。本会議には、企業会計基準委員会（ASBJ）の川西安喜委員長、中国財政部会計司の Huihao Shu 司長及び中国会計准则委員会（CASC）の Juan Zhang 副司長、韓国会計基準委員会（KASB）の Han Yi 委員長をはじめとする三カ国の代表者が参加し、香港及びマカオからも、香港公認会計士協会（HKICPA）の Cecilia Kwei 基準設定部ディレクター及びマカオ会計士委員会（PCA）の Pou Man Ng 委員が参加した。また、国際会計基準審議会（IASB）からは、Andreas Barckow 議長、Jianqiao Liu 理事が参加した。企業会計基準委員会（ASBJ）から、川西 ASBJ 委員長に加えて、紙谷 ASBJ 副委員長、山口 ASBJ 常勤委員、及び筆者が出席した。

なお、文中の発言者及び筆者の意見にわたる部分は、各人の私見であり所属する団体・組織の見解ではない。

2. 全体のスケジュール

今回の会議の議題は、次のとおりであった。

	議 題	担 当
1	開会の挨拶	Huihao Shu 司長（中国財政部会計司）
2	IASB の挨拶	Andreas Barckow 議長（IASB）

	議 題	担 当
3	会計基準に関する動向の近況報告	ASBJ KASB 中国財務省会計司 HKICPA PCA
4	テクニカル・セッション 1 ● 法人所得税—国際的な税制改革	ASBJ
5	テクニカル・セッション 2 ● 暗号資産	KASB
6	テクニカル・セッション 3 ● リース	CASC
7	次回日中韓三カ国会計基準設定主体会議に 向けた議論	
8	閉会の挨拶	Juan Zhang 副司長 (CASC)

3. テクニカル・セッションにおける主な議事概要

(1) 法人所得税—国際的な税制改革 (ASBJ)

本セッションでは、ASBJ より、経済協力開発機構 (OECD) が 2021 年 12 月に公表した「経済のデジタル化から生じる課税上の課題—グローバル税源浸食防止モデルルール (第 2 の柱) : BEPS 包摂的枠組み」(以下「第 2 の柱モデルルール」という。) についての、我が法域での法制度の整備状況や、第 2 の柱モデルルールに基づく想定される会計上の論点について説明がなされた。参加者からは、各法域における法制度の整備状況、当期税金に関する認識の時期、測定方法、第 2 の柱モデルルールから生じると想定される一時差異について繰延税金資産の認識の是非、親会社等の個別財務諸表上における関連する税金費用の表示の方法についての意見が交わされた。

(2) 暗号資産 (KASB)

本セッションでは、KASB より、暗号資産をテーマとして、法域における取引状況や会計上の取扱い、他の法域における基準開発の状況を調査した結果及び、7月に公表された開示に限定した公開草案や規制当局によるガイダンス等について詳しい説明がなされた。参加者からは、開示の公開草案について、例えば IFRS 第 7 号「金融商品：開示」等の他

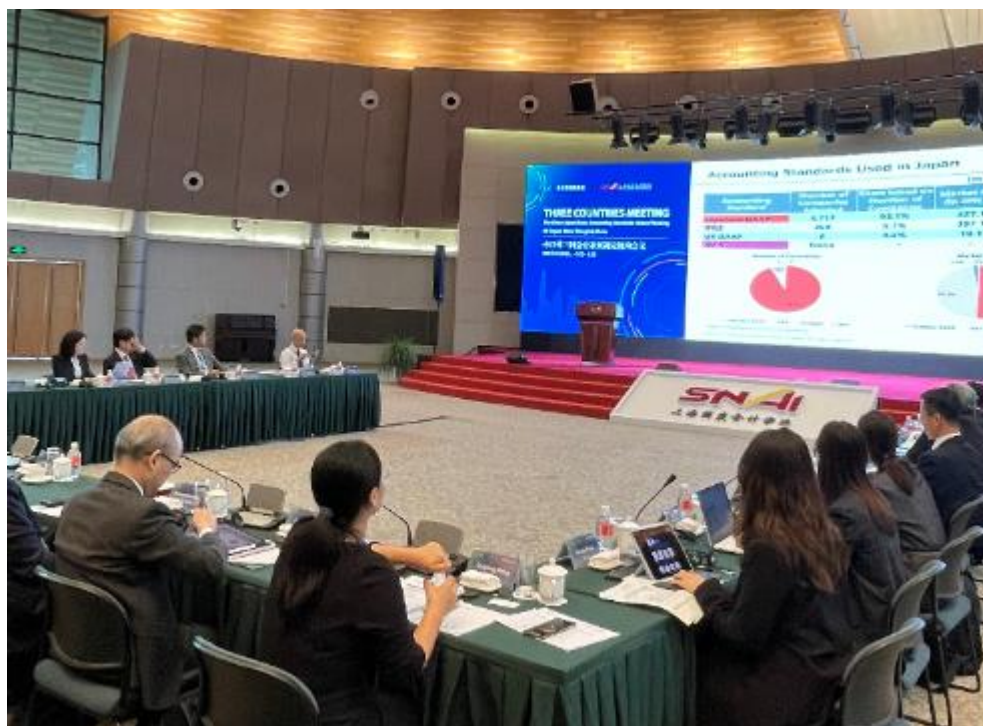
の IFRS 会計基準との関係の中で暗号資産をどのように整理すべきかについて意見が交わされた。

(3) リース (CASC)

本セッションでは、CASC より、リースをテーマとして、2019年1月1日以降に開始する事業年度において適用されている IFRS 第 16 号「リース」(以下「IFRS 第 16 号」という。)の要求事項について、これまでに法域で識別されている適用上の課題について詳しい説明がなされた。参加者からは、各法域における IFRS 第 16 号の適用状況及びその際に生じた課題と対応状況について説明がなされた。参加者からは、IFRS 第 16 号の適用上の課題とその対応について意見が交わされた。

4. その他

本会議の閉会に当たり、CASC の Juan Zhang 副司長より、本会議の参加者に対して謝意が示された。次回の会議は、2024 年に韓国で開催することで合意された。



以上